



12月号

学校だより

みどりの

○考え伝え合う子

○心豊かな子

○元気な子

○やりぬく子

令和4年12月1日

広い視野からの「相手意識」を

校長 遠藤 昌司

11月の終わりに避難訓練がありました。訓練となるとなかなか真剣さが足りないという場合もあるものですが、整然と移動し、校庭で集合した後も落ち着いた態度で待機することができました。今回は休み時間に地震が発生し、更に火災が起きたという想定でしたが、訓練のまとめとして、実際の災害では予想できない状況もありうるので、落ち着いて先生からの指示に従って行動することが大切であることを話しました。突然の災害などがあっても、緑野小学校の子ども達は冷静に自らの命の安全を確保することができるに違いないと、心強く感じました。

12月4日から10日は「人権週間」です。これは国際連合が今から70年以上前の12月10日に世界人権宣言の採択をしたことから、この日が「人権デー (Human Rights Day)」と定められていることにちなんでいます。そもそもは20世紀に二度の世界大戦が起きた中で、人権侵害や人権抑圧が横行したことを受け、人権問題は国際社会全体にかかわる問題であり、人権の保障が世界平和の基礎であるという考え方を受けてのものだそうです。神奈川県は人権がすべての人に保障される地域社会の実現をめざしており、「やさしさが つたわる ひろがる 花ひらく」とうたわれた啓発ポスターが学校にも届いたので、校長室前に掲示してあります。

このように聞くと、「人権」という言葉は少し遠い存在に感じてしまうかもしれませんが、実は日々の学校生活において、とても大切にしなければなりません。人権尊重の理念を分かりやすく言い換えるならば「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」となります。そこでは、他の人の立場に立つ、伝え合い分かり合う、一方的な主張とならないようにすることが求められます。一人一人にこの3つのことが備われば、誰もが安心して過ごすことのできる環境へとつながるはずです。

特に1つ目の、他の人の立場に立つことについては、視野を広げることが大きくかかわると思います。視野が狭いままでいると価値観も限られたものとなってしまい、その枠から外れたことについて理解できず、排除することにつながりかねません。視野が広がっていけば価値観の枠も大きくなっていき、自ずと排除する対象は減っていくはずです。

緑野小学校は重点目標の中に「人の立場が理解できる子をめざして」と掲げており、「相手意識」として教育活動の中で子ども達に投げかけています。自分も他の人も大切にし、安心して過ごせる緑野小学校を築いてほしいと思います。